

研究所だより

年の瀬を迎えて

つい先日、“新年、明けましておめでとうございます”とご挨拶していたのが、あっという間に11月。本号が発刊する頃には、年の瀬の足音がだんだんと大きくなっている頃と思います。

100年に1度といわれる大不況の中でのスタートとなった2009年も間もなく終わろうとしています。

今年も、「新型インフルエンザ」の襲来や相次ぐ「台風」の上陸、「水害」、浅間山や桜島の「噴火」、大雪山系の「遭難事故」、「派遣ぎり」や「内定取り消し」などさまざまな災害や事故・事件がありました。

その一方で、「政権交代」をはじめ、「裁判員制度」導入や「消費者庁」新設など新しい展開を予感させる出来事や、「皆既日食」やイチローのメジャー初9年連続200本安打大記録達成など滅多に遭遇できない感動にも立ち会うこともできた年でもありました。

チョッと気の早い10大ニュースですが、皆さんの今年一年は如何でしたでしょうか。

これから年末にかけて、色々と忙しい時期に入りますが、穏やかな年の瀬と良き新年をお迎えになられますようお祈り申し上げます。

また、今年一年、価値総合研究所に暖かいご指導・ご鞭撻を賜り、誠にありがとうございました。

来年も価値総合研究所をどうぞよろしくお願い申し上げます。

編集者から

本号は、通常の号とはちがって、特定のテーマを定めずに、研究員が日頃考えていること、あるいは、関心・興味をもっていることで構成してみました。

その結果、記事の内容としては、地域づくりに関する概論（人材育成、地域経営）、具体的な事業手法・制度（GIS、ジオパーク、気候変動対策）、産業（ものづくり、観光産業、小売業）、住まい（高齢期）と多彩なラインナップとなっています。

ただし、それぞれの内容を概観すると、「地域」というキーワードが浮かびあがってきます。

やはり、世の中全体が元気になる、特に、個人一人ひとりが明るい気持ちを持つためには、少なくとも住む地域の活性化が必要となるでしょう。

その意味で、本号は、世界あるいは全国各地の先進事例を紹介しながら、研究員それぞれの観点で活性化のあり方を整理しています。

都市も地方も停滞感が蔓延するこの頃、ここに掲載した観点だけで直ちに活性化する訳ではありませんが、小さな一歩にはなり得るのではないかと考えております。拙い内容ではありますが、皆さまのご参考になれば幸いです。

Best Valueでは、今後も、皆さまのお役にたてるよう、様々なテーマに取り組みたいと思っておりますので、引き続き、よろしくお願い申し上げます。

（目黒 義和）

前号5頁、青木成樹「オープンイノベーション」(3)本文8行目以降においての「鈴木博士」を「池田博士」に訂正いたします。
関係者には多大なご迷惑をお掛けし、申し訳ございません。